

航空宇宙防衛産業の企業倫理の実践に関する 国際フォーラムに参加して

平成26年11月6日、7日の2日間、ベルギー ブリュッセルのユーロコントロール^(注1)で International Forum on Business Ethical Conduct for the Aerospace and Defence Industry (以下「IFBEC」) 第5回 Annual Conferenceが開催された。米国航空宇宙工業会 (AIA) と欧州航空宇宙防衛工業会 (ASD) 所属の欧米主要企業から企業倫理・コンプライアンス責任者を始め、NATO、バーセル統治研究所、OECD、NGO団体等から総勢86名に及ぶ関係者が参加し、情報交換を行った。

SJACとしては3年振りの発表 (川崎重工業が実施) を兼ねての参加^(注2)となった本国際会議について報告する。

(注1) 欧州航空航法安全機構：(European Organisation for the Safety of Air Navigation) 通称ユーロコントロール (Eurocontrol) は、1964年に設立され、ヨーロッパ地域の加盟国41カ国で構成された航空交通管理に係る国際機関。本部はベルギーのブリュッセルにある。

(注2) 第1回 (2010年1月13日・ベルリン)
第2回 (2011年10月19-20日・ワシントンDC)
第3回 (2012年9月13-14日・マドリッド)：SJAC不参加
第4回 (2013年10月15-16日・ワシントンDC)

1. はじめに

(1) AIAとASDは2009年11月にヘルシンキで「航空宇宙産業に関するビジネス倫理の国際原則」(Global Principles of Business Ethics for the Aerospace and Defence Industry：以下、「国際原則」) に調印し、それまで欧米がそれぞれ倫理綱領を定め、個別に実践していたものを、欧米間で共通の企業倫理憲章を

持つことに改められた。翌年2010年1月に第1回のIFBEC国際会議がベルリンで開催された後、欧州と米国で交互に開催されており、今回で5回目となる。

(2) 「国際原則」の主な内容は、①それぞれの企業は社員教育を推進し、内部報告を奨励するための組織を作ること、②汚職防止



ユーロコントロールの会場の雰囲気

に関し国際法、ビジネスを展開する相手国の法律や社内規則などを遵守するべく、細目の規定を設けること、③アドバイザーを活用する場合、法遵守の教育を行うとともに、金銭の支払いなどをきちんと管理すること、④利益相反にならぬよう、各種の法律や規則、命令への遵守を求めること、⑤企業の秘密の遵守として、自分の属する会社の秘密はもちろん、会社が変わっても昔の会社の秘密を遵守すること、などを求めている。

- (3) IFBEC会員は欧米の主要企業である Lockheed Martin 社、Boeing 社、General Dynamics 社、Northrop Grumman 社、BAE Systems 社、Dassault 社、Rolls Royce 社、Safran 社、Thales 社、Finmeccanica 社、Embraer 社、Elbit Systems 社など合計30社から構成されている。
- (4) IFBECのミッションは、ASDとAIA共通の企業倫理規範である「国際原則」を通じ企業倫理を世界の航空宇宙産業全体に普及させていくことであるが、年に一度の国際フォーラムの開催を通じ、企業、政府、一般団体などとの情報交換や優良事例の発表とともに、双方向の対話を通じ、業界全体の倫理基準の強化を図っている。
- (5) SJACの対応としては、①欧米とともに国際的な協調活動としてビジネス倫理活動を推進していく必要がある、②この活動の基本は、企業の自主的な活動であり、工業会は倫理活動を勧奨するが、管理監督はしない、③欧米が倫理活動の推進として重視している贈収賄を中心とし、我が国で経団連憲章などすでに検討されているものを尊重して、我が国の実情を配慮していく、とい

う考え方をもとに、SJACとしての倫理要綱を制定している他、本国際フォーラムにも参加し、情報収集を行っている。

2. カンファレンス概要

第5回の国際会議はIFBEC議長であるエアバス社のPedro Montoya氏（Senior Vice President, Group Ethics and Compliance Officer）と副議長であるRaytheon社のTim Schultz氏（Acting Vice-President, Ethics and Business Conduct）が進行を務めた。

以下、主要な講演について報告する。

- (1) 「Fostering speak-up culture : different angles and perspectives（不正に対する）通報・告発文化の醸成：視点・角度を変えて～」

この講演は「欧米」とは異なる地域及びコンプライアンス担当者以外にも交えたセッションとして生まれ、モデレーターNick Ruscio氏（BAE Systems）の下、D. Temin氏（Elbit Systems：イスラエル）、P. Stradioto氏（Embraer：ブラジル）及び細井邦生氏（川崎重工業）が登壇し、コンプライアンス教育、内部告発制度の運用に関するプレゼンテーション及びパネルディスカッションを実施した。

細井氏は自社のCSR・コンプライアンス活動、特にコンプライアンス推進体制とその中で実行される通報・相談制度について説明した。

質疑では日本企業にとって従業員に対する通報・告発奨励上の問題点は何かとの質問に対し、「通報・告発」に対する抵抗感、身内を庇うという日本文化の存在があるため、全従業員に対するコンプライアンスガイドブックの配布やコンプライアンス教育を毎年繰り返し実施することによる意識改革の重要性をアピールした。また、海外展開時に最初に取り組むべき事項に関する質問に対しては現地



発表者：川崎重工業 細井邦生氏

派遣スタッフへのコンプライアンス活動の説明、教育から始める旨回答した。

他の2社からも同様に、内部通報制度、内部告発者（ホイッスルブローワー）保護制度の推進における教育の重要性に言及していた。

(2) DII (Defense Industry Initiative on Business Ethics and conduct) の最新状況報告

米国の企業倫理推進の非営利団体であるDIIのL. Kennedy氏（SAIC社）から、同団体の倫理規範、組織概要、2014年次ベストプラクティスフォーラムの紹介及び成果報告としてサプライチェーンを対象とする活動原則を取りまとめた「Supplier Toolkit」とDII HPによる「Online Community」、「DII SmartBrief（月間ニュースレター）」提供等の発表がなされた。

特にインターネットとソーシャルメディアでのブログや様々なツールを利用した情報提供・共有の重要性を強調していた。

(3) 「Offset Project Proposal」

バーゼル統治研究所（Basel Institute on Governance）G. Fenner氏から、IFBEC会員内でのオフセット^(注3)の専門家や実務者のワー

キンググループと連携して、バーゼル統治研究所によるグローバル・オフセット・プラクティスに関する包括的研究委託を行うとの発表がなされるとともに、オフセット取引での腐敗リスクの排除についてプロジェクトの推進計画（IFBECのオフセット有識者による速やかなワーキンググループの立ち上げ、バーセル研究所への支援等）について報告がなされた。

(注3) オフセット取引とはある国が外国企業から防衛装備品を購入しようとする場合、購入の見返りに当該企業から部品の発注その他の経済的利益の提供を受ける取引。この行為そのものよりも、これに付随して腐敗リスクの発生が懸念される。

(4) 「Stakeholder Dialogue」

トランスペアレンシー・インターナショナル（Transparency International：TI）UKのMark Pyman氏から同組織がドイツ・ベルリンに本拠地を置く汚職・腐敗防止活動を展開する国際NGO非営利組織であり、現在、オフセット腐敗リスク問題とCI（Defense Companies Anti-Corruption Index：各国主要防衛関連企業の情報公開度指数）に焦点を当て活動中である旨説明があった。この中でCI 2012年版にも言及（図1参照）されたが、これは主要防衛企業（約170社）を対象に情報公開度調査を実施し、個別企業毎にランキング化したものであり、実に約70%の企業が情報公開不十分との評価結果となっていた。現在、2014年版を取りまとめ中とのことである。

また、帰国後TIのホームページ等を調べたところ、この他に世界175ヵ国・地域の「腐敗認識指数（Corruption Perceptions Index：CPI）」調査を定期的に行い、指数0（腐敗度－高）から100（腐敗度－低）までのスケールで各国をランキング表示している。この指数は「腐敗とは与えられた権限を乱用して私

TI + THE DEFENCE INDUSTRY Defence Companies Index 2012

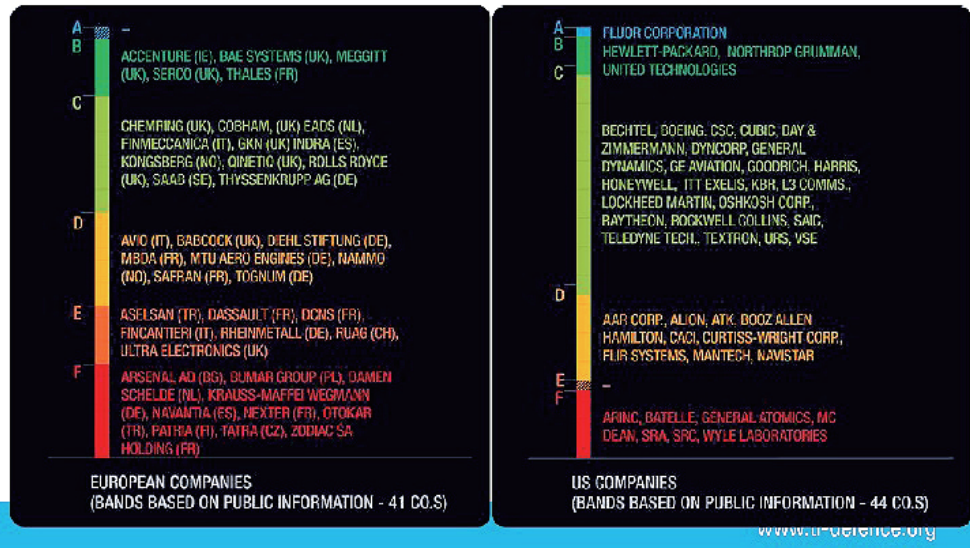


図1 発表資料からの抜粋：左側が欧州企業、右側が米国企業のランキング表 A～Fランクで評価（Aが透明性が最良）

的利益を得ること」との同社の定義に基づき、各国の公務員や政治家などが賄賂などの不正行為に応じるかどうか、公的部門と民間との関係における腐敗度を調査・評価し、ランキングするもので、実に3分の2の国が指数50以下の評価とのことである。（CPIの日本評価は2014年版では15位－指数76、2013年版は18位－74）

同氏は「防衛産業での腐敗は恐ろしく、国を分断するものであり、無駄でもある。またそのコストは市民、兵士の命、企業や政府に付け回されることになり、もっと厳しくチェックし、お金を有効に使うべき」と述べた。

(5) その他、この場で「IFBEC 2014 Public Accountability Report」が発表され、IFBEC

会員企業間の倫理・コンプライアンスプログラムの継続的な取組とその成果が強調されていた。

このレポートはIFBEC会員、政府関係者、金融機関及び非政府組織を含む複数の利害関係者に対し次の観点からアンケート調査を行い、この1年間における腐敗防止プログラムを遂行した会員企業等の活動など、様々な行動をまとめたものである。

- ・「国際原則」支持の会員企業内での方針と整合的なプログラムの実施、推進及び遵守
- ・腐敗・汚職の徹底排除 (Zero Tolerance : 非寛容)
- ・アドバイザー活用
- ・利益相反の管理
- ・機密情報の尊重

詳細データはIFBEC Webサイト (<http://ifbec.info/>) でダウンロード可能となっている。

(6) 閉会に当たり、Pedro Montoya IFBEC議長から「今回は最も成功した会議の1つであった。我々は多くの業界関係者と国際ビジネス倫理とベストプラクティスに関する有益な対話が行えた」との発言があった。また、Tim Schultz副議長から「世界の航空宇宙・防衛産業に役立つと信じ得る多くの取り組みについて発表できたことは喜びである」と付言された。

次回（第6回）国際会議は2015年に米国ボストンで開催の予定である。

3. その他（欧州議会見学）

初日の講演終了後、参加者を対象にブリュッセルにあるEU Parliament（欧州議会）の見学及び夕食会が行われた。同施設はEU加盟の23カ国の言語で見学出来るようになっている。現地に着いたのが19時頃であったため、ホールは閑散としていたが、欧州議会内には各国の議員や関係者が常時5,000人位勤務しているとのこと。

4. 所感

今回、川崎重工業 細井氏共々初めてのIFBEC国際会議への参加となった。他国の参加者はほとんど全てEthics、Compliance、Legal部門の企業関係者とNATO、OECD等の政府機関、NGO関係者であり、議論の専門性もさることながら、企業倫理・コンプライアンスに対する各国・企業の真摯な取り組み姿勢が垣間見られ、自身もその重要性を再認識したところである。

また、女性会員（含むプレゼンター）の参加の多さが目を引いたが、おそらく今回に限った話ではなく、各企業・団体における男女機会均等の考えがしっかりと浸透している所以であろう。

国内に目を向ければSJAC各会員企業においても企業トップから担当者に至るまでCSR・コンプライアンスの重要性を認識の上、様々な取り組みが専門組織を中心に進められており、各社のホームページでは「CSR・コンプライアンス」というキーワードが目を引きようになっているが、全体から見れば露出度、アピール度はまだまだ発展途上という感がある。

今後も引き続き、世界のビジネス倫理の動きや流れについての情報収集を行い、会員企業に提供し、国際的なビジネスが成功するよう支援していくこととしたい。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 国際部部长 川原 亘弘〕